

「国際芸術祭」に関心を持とう！

チラシ 第3号
大町の芸術祭を考える会
2016年5月19日

2,162 署名 ありがとうございます。

市議会に「北アルプス国際芸術祭 信濃大町 食とアートの廻廊」関連予算の計上を保留し予備費に移すことを求めた陳情署名は、2月12日から始めて3月14日の最終〆切までに2,091名分を提出することができました。〆切後到着分を合わせて2,162名となりました。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

残念ながら陳情に賛成した議員は4名のみで、3月議会中に「補正」で総計1億1千万円に急増した予算案はそのまま採択されました。しかし、『議会だより』を見ても、多くの議員から進め方や内容に多くの疑問や注文が出されていました。市と実行委員会は、こうした議会や市民の声を真摯に受け止めていただきたいと思います。

考える会には、芸術祭に対して賛否を含め様々な意見を持った人たちが集まり、「今回の決め方、進め方がおかしい」の一点で協力しあって活動しました。予算採択を受けて話し合い、今後は国際芸術祭に対する「市民オンブズマン」の役割を担っていくことを確認しました。**オンブズマン**（スウェーデン語）は、行政への苦情を受け付け、問題の監視・告発を行う役割を担う人です。

本会による2回の新聞折込チラシや2回の討論会は、国際芸術祭に対する市民の関心を高めることに貢献したと思います。これからも国際芸術祭をめぐる動きを点検しながら、市民の皆さんとともに議論する場を設けていきます。**市民一人一人がオンブズマンです**。あなたもぜひ「国際芸術祭」に関心を寄せて、対話しましょう！



第2回討論会も大盛況！

考える会主催の第2回討論会は3月11日（金）、サンアルプス大町を会場に、2部制で開催し、午後の部60名、夜の部42名の合計102名が参加しました。第1回（109名）と同じく賛否両方の立場から、多くの方々が発言し活気ある議論となりました。

「地元の人材が活用されていない」という意見に対して、推進の立場からは「地元の人でも北川フラムという登竜門を通過してきてもらったらい」という意見があり、これに対して「北川さんこそプロポーザルコンペなどで市民の審査を通過してほしい」との反論が会場からありました。このやりとりからも、問題の焦点が北川フラムさんのカリスマ的扱いとそれを根拠にした随意契約と計画の「丸投げ」が妥当かどうかという点にあることが鮮明になりました。

国際芸術祭の基本計画に対する住民アセス

■□■ 評価書案へのご意見を募集中（6月10日〆切） □■□



評価書案にはこんなことが書いてあります

「基本計画」に以下のようなことがどの程度書かれているのかを点検して、課題や提言を示しています。

- * 市の財政からみて適正な規模のイベントなのか？
- * 作品を置く地域社会にどんな配慮をしているのか？
- * 地域の文化に与える影響はどうか？
- * 定住促進や地方創生効果はどのくらいなのか？
- * 「食」はどの程度重視されているのか？

考える会では、情報公開請求で入手した国際芸術祭基本計画が、地域の環境や福祉、文化などに対する影響についてどの程度配慮されているかを点検するための環境社会配慮評価（アセスメント）を試みます。その評価書案をインターネットで5月20日に公開します（希望者には配布）。これに対して頂いたご意見への回答を含めて、評価書としてまとめ、国際芸術祭実行委員会に提出します。

皆様積極的なご意見をお待ちしています。

評価書案をダウンロードできます <http://npo.omachi.org/works/geijyutusai/>

国際芸術祭の準備は異常事態!?



国際芸術祭の準備は、下記のように、無計画なまま、市民への説明も省略し、補助金を返納しなければならないほど作業は遅れていて、異常な事態です。このまま押し進めていいのでしょうか？ 私たちはあらためて来年6月開催を見直すことを提案します。

例 1

実施計画は 作らず見切り 発車

4月に公表された「基本計画」は、北川フラムさんの会社に500万円を払って作成してもらいましたが、たった18頁、内容も大まかな開催エリアやイメージが書かれているだけで、具体性はありません。今年度予算では、この後に「実施計画」を作成するために、北川フラムさんの会社への委託費700万円を計上しています。しかし、ここに来て市は「実施計画は作らない」と明言しています。具体的な場所や作品をどのように設置するかを説明せずに突き進んでしまうと、後から地域とのあつれきが生じてしまうでしょう。

例 2

市民説明会 はやらない まま

2月に全戸配布された「計画概要」では1月中旬～5月の間に市民説明会を開催する計画でした。市長も「市民にしていぬいに説明していく」と何度も発言しています。しかし、この間に一般市民に開かれた形での説明会は開催されていません。市の「地方創生計画」の説明会で国際芸術祭に関する質問が集中したこと、本会が主催した2回の討論会に市や実行委員会関係者が出席されて発言されたこと、市民有志の要請に実行委員会の傍聴を認めたことなどがありましたが、市や実行委員会が主体的に行ったことではありません。

例 3

作業が進ま ず県に補助 金を返納

実行委員会が、アーティストを招聘して行おうとした準備や作品設置場所を紹介する冊子などの準備のために、長野県の補助金（平成27年度元気づくり支援金）260万円をあてる予定でしたが、作業が進まずに、返納することになりました。一般的には補助金を返納した団体は「業務執行能力がない」と評価され、翌年度以降の補助金を受けられないこともあります。県も実行委員会の一員であるため問題とはならないようですが、2億円もの公金を適正に使えるのか大変心配です。襟を正してことにあたるべきです。

例 4

奥能登に比 べて半年以 上遅れ

北川フラムさんを総合ディレクターとする奥能登国際芸術祭（実行委員長は珠洲市長）は北アルプス国際芸術祭の3ヶ月後の来年9月～10月に開催されます。すでに公式ホームページも開設され、2月14日に参加アーティスト第一弾（9名）が発表され、3月2日には参加アーティストが現地を視察しています。一方、北アルプス国際芸術祭は、5月16日ようやく公式ホームページを開設しました。全体としてみると、実質半年以上も遅れている状況です。短期間に間に合わせようとするとうまくない費用が出てきそうです。

例 5

議会ごとに 補正予算の 工程表

北川フラムさんに委託した作成された「基本計画」の工程表（スケジュール）には、今年度内のすべての議会（6月・9月・12月）で「補正予算」を想定して書き込んでいます。北川さんは当初予算の2億円では足りないことを見越しているのでしょうか？
上記のように、無計画で、市民への説明をなおざりにして、準備作業が進まないからといって、次々に「補正」して、経費を膨らませてしまっているのでしょうか？

私たちはこれ以上 予算を膨らませることに反対します。



第3回討論会

賛成・反対を問わず誰でも参加歓迎
ぜひお越しください！

6月3日(金)午後3時～5時

会場：サンアルプス大町（研修室）
分散会方式で意見を交流します。